

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 宮城県仙台二華中学校・高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒984-0052
仙台市若林区連坊1-4-1

E-mail chief@nika.myswan.ne.jp (代表)

Website http://nika.myswan.ne.jp/

児童生徒数 男子 169 名 女子 524 名 合計 693 名 (高校)
男子 142 名 女子 168 名 合計 310 名 (中学)
児童・生徒の年齢 13 歳～18 歳

2. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

(1) 1年間の主な活動内容について記載原

(中学校)

- ・全校で日常的にエコキャップ運動（世界にワクチンを届ける）を展開。
- ・生徒会活動としてユニセフ募金を実施した。
- ・生徒会活動として熊本地震募金を実施した。
- ・生徒会活動として「ユネスコ寺子屋運動：書き損じはがき回収」を行った。
- ・文化祭での収益をユニセフに寄付した。
- ・中学3年生全員国際理解学習の一環として香港・マカオ（世界遺産）への研修旅行に参加した。
- ・巡検と称した地元の山・自然に親しむ活動を全員参加で継続的に実施した。
- ・総合的な学習の時間を利用して系統性を考慮した探究的な学習（国際理解や環境学習などのワークショップ、体験学習活動、国際交流等）を数度実施した。

①中学1年生の事例

「 秋のSR巡検 」

10月14日（金）、1年生は、年3回予定している野外巡検（定点観測）を行いました。当日は天候に恵まれ、所期の目的である、五感で自然を体験し、四季の移ろいによる植生の変化や生命の多様性および大地の成り立ちを感じとることは十分に達成できたと思っています。

午前中は、春の巡検でそれぞれの班が決めた「我々の木」に関する様々なデータ等を収集しました。目印が見つからず、春に決めた木がどの木だったかが分からなくなってしまった班。すぐに自分たちの木を発見し、工夫・協力してデータをとる班。データ収集に専念したいが、様々な虫にちよっかいをかけられ作業が進まない班。等々姿を見ることができました。

観測後の昼食は、大自然の中で仲間と班を作って食べたこともあり、学校の給食時間とは違った和気あいあいとした雰囲気が学年全体を覆いました。

午後の焼河原での化石採集は、午前中の観測や徒歩移動の疲れを見せず、一人一人が集中して採集に取り組んでいたようです。



(班員と協力しながら観測し、データを集める)



(昼食途中に はい ポーズ)



(巨大化石をゲット！)

②中学2年生の事例

「 English Camp -Let' s learn together and enjoy!- 」

1月25日～27日、2学年は富谷市にある公益財団法人東北自治研修所を会場に「イングリッシュキャンプ」を行いました。基本的には3日間英語だけを使用した生活をおくる研修です。英語での会話術やコミュニケーションをとる際のマナーやルールを身に付け、次年度の香港・マカオでの海外研修に備えること、外国人との直接交流を通して、異文化への理解を深め、自国の文化を英語で発信する力を高めること等を目標にしました。帰校後の表情からは、目標を達成した充実感が感じられました。



②中学2, 3年生の事例

「中学2, 3年生北上川フィールドワーク」～ヨシ原の再生から、環境問題を考える～

去る7月8日(金)、石巻市北上町橋浦大須地区の北上川河口付近において、中学2・3年生合同で「北上川フィールドワーク」が行われました。主な活動内容は、震災によって失われた「ヨシの移植活動」と、「干潟の生物の観察」です。東北工業大学の山田一裕教授のご指導のもと、生徒たちは一生懸命ヨシの移植活動を行っていました。



植える箇所をスコップで掘る作業

移植の際の留意点を説明する山田教授と真剣に聞く生徒たち

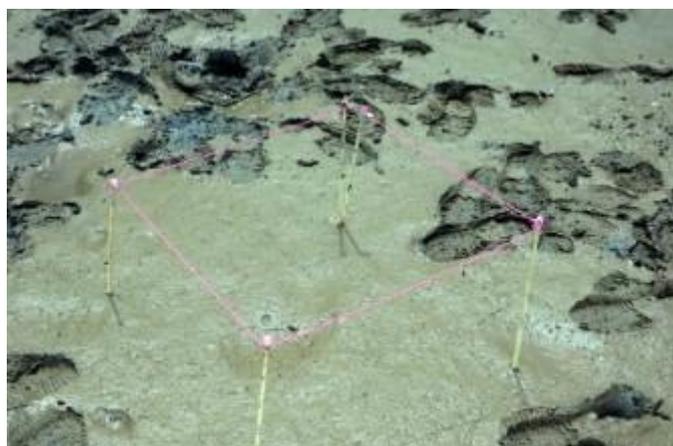
ぬかるみに足をとられ、服や顔に泥をつけながらも、みんなで協力して懸命にヨシを運ぶ生徒たちの姿を見た地元の方々からは、「ありがたいことだねえ」と感謝の言葉をいただきました。この北上川を、離れた土地に住む人々が気かけ、訪れてくれたことが嬉しいのだとおっしゃっていました。

かつて、北上川河口はヤマトシジミの一大生息地でした。しかし、ヨシ原の消失により塩分濃度が高くなったため、以前のように生息できなくなりました。ヨシ原は、ヤマトシジミをはじめ多くの野生生物にとって無くてはならない存在であると改めて感じました。

また、山田教授によれば、ヨシ原のもつ環境保全機能は極めて高く、ヨシ原100ヘクタールの汚水浄化力は、約30万人（青葉区人口）の汚水処理機能に匹敵するのだそうです。



ヤマトシジミ発見！！地元では通称「べっこうシジミ」と呼ばれているそうです。はりきりすぎて泥に足をとられてしまった人も。



生徒たちが作ったコドラート（方形区）



大量のハゼを捕まえた班



一方、高校の生物を担当している佐々木洋先生の指導で行われた「干潟の生物の観察」では、生き生きと観察・記録に取り組みました。多くの方がかにやハゼ、ヤマトシジミ、ゴカイなどの捕獲に成功し、あちらこちらから歓声が聞こえました。中には、跳ねて逃げるハゼを思わず手でつかもうと追いかけてしまい、あわてた佐々木先生から「網を使いなさい！網を使いなさい！！」とたしなめられる一幕もありました。

昼食後は、国宝重要文化財保存修理や屋根の茅葺き工事などを生業とする熊谷産業を訪問し、会長の熊谷貞好さんとNPO法人リアスの森の武山文衛さんから、北上川の歴史や大震災後の状態について講話をしていただきました。

今回、ヨシ原を守る活動に実際に参加し、現場を見たり体験したりすることで、環境問題について考えを深めました。普段の学校生活では学ぶことのできない多くのことを、生徒たちは勉強することができた1日となりました。

(高等学校)

- ・全校で日常的にエコキャップ運動（世界にワクチンを届ける）を展開。
- ・生徒会活動として熊本地震募金を実施。
- ・JRC部の活動として「ユネスコ寺子屋運動：書き損じはがき回収」を実施。
- ・国連協会が主催する国際理解に関する弁論大会（宮城県大会）に高校1，2年生3名が参加し、全員が入賞を果たした。
- ・外務省・日本国際連合主催「国際理解・国際協力のための高校生的主張コンクール」に宮城県予選で優勝し、県代表として参加。その結果、「特賞・文部科学大臣賞」を受賞した。副賞として、ニューヨークの国連本部への見学等の研修旅行に参加。
- ・高校2年生の生徒がユネスコスクール対象のESD研修（インドネシア派遣）に選考され、現地でESDについて多角的な研修を行い、学びを深めた。
- ・高校3年生の生徒4名が、北京で開催された国際学会に参加し、「課題研究」で行った水問題の研究成果について発表した。
- ・NGOの関係で来日していたパレスチナのゲストを英語コミュニケーションⅡの授業に迎え、紛争や平和についての意識を高めた。
- ・有志生徒が世界の小児がんやがん患者のための支援基金を集めるチャリティー活動 Alex Lemonade Stand を実施、売り上げ10万をNGOに寄付し、感謝状を受け取った。
- ・課題研究の一環としてメコン川流域の国々へフィールドワークに行った生徒たちが、カンボジアの学校にトイレを増設するプロジェクトに協力するため、校内で募金活動を実施、寄付した。
- ・長期留学生（10ヶ月）を受け入れ、日常の学校生活の中で異文化理解を深めた。
- ・高校1年生環境学習、持続可能な開発のための学習として、北上川フィールドワーク（全員参加）を1泊2日で実施した。
- ・高校1年生では国連システムの理解と言語活動の充実のため、「模擬国連」活動を数時間にわたって実施した。
- ・中学3年生+高校1，2年生を対象に「グローバルリーダー養成講座」を実施した。
- ・高校1，2年生20名がアメリカ・デラウェア州の姉妹校を訪問、国際交流・国際理解を深めた。
- ・高校2年生の希望者がメコン川フィールドワークに参加した。
- ・高校2年生全員がグアムにおいて探究的な課題を設定して研修活動等を行った。

① 高校1年生の事例：『模擬国連体験』の様子

高校1年生の課題研究Ⅰでは、模擬国連体験を下記の日程・テーマで5回に渡り実施した。

日程	テーマ	内容
第1回 5/17	模擬国連を体験 －「国連弁当」－	8ヶ国の立場で国連の事務職員の昼食メニューを話し合いで決定。自国の農作物や食文化のアピールの場になりました。
第2回 6/13	模擬国連ガイダンス	昨年全日本高校模擬国連大会に参加した2年生による実体験報告と担当先生からのガイダンスを受けました。
第3回 6/14	外務省総合外交政策局から講師を招いて	「国連や日本の外交、国際問題」の講話。放課後は国際社会で働くためのセミナーや質問応答を行いました。
第4回 6/28	「核問題」に挑戦 －核軍縮の合意形成－	8ヶ国の立場でCTBTの全参加国批准に向けた話し合いを実施。各国の大使は自国の利益のために戦略を練って臨んでいました。
第5回 7/12	本格的な模擬国連に挑む	全日本高校模擬国連大会日本代表の東大生4名を招き実施。議題「Transforming our world: Ensure access to water for all」で「持続可能な開発目標における水資源」の問題について、①安全で安価な飲料水の確保、②有害物質の排除と水の再利用、③水資源管理における国際協力の3つの論点から、17ヶ国での総会の場となり、本格的な模擬国連を体験しました。



「模擬国連」授業の進め方の説明



各国同士の自由討論（コーカス）



パートナーと会議戦略・打合せ

【模擬国連で学んだ生徒の考察から】

- ・どのように交渉すれば自国の利益になるか、一国の意見を通すのか、部分的に取り入れてもらうのか、最初難しさを感じた。
- ・（「日常生活に役立てることはあるか」という質問に対して）
ニュースを見ながら、この国であれば何が問題で、もう一方の国の立場で何が問題なのかをできるだけ客観的に知り、考えるようにすること。ニュースをただ見るだけではすぐ忘れてしまうが、一度考えてみたら忘れることはあまりないと思う。

② 高校2年生の事例：県内フィールドワーク

11月27日(日)午前10時から12時まで、栗原市にある一迫農業環境改善センターにおいて、一迫在住の農家の方6名をお招きし、「農業を営む方々と直接話すことで、農家が抱える問題と、実際に農業用水がどのように用いられているかを学習し、合わせてインタビュー技術の向上を図る」という目的の下、インタビュー調査を行いました。

当日は、農家の方1名に対し、生徒3～4名が1グループとなり25分間のインタビューを各4回行いました。インタビュー終了後は、一同円形になって座り食事をとりました。インタビューでは聞きそびれたこと、農家の方々が話し足りなかったことなどを交えながら、一人ずつスピーチを行いました。本やネットで調べたことと、現地で話しを聞いたことの違いに驚いたといったようなスピーチがありました。

東北地方の農家が現在抱える問題や、日常の水の使い方の工夫の仕方等を主に高校生の質問に答えてもらう形で行いました。インタビューを通して、東北地方と東南アジアの農家の方々の意識の同質性・異質性等を興味深く学ぶことができました。改めて農業という職業は高度な専門知識の必要な職業だと言うことと、このグローバル社会で東南アジアの農村同様東北地方の農家も否応なく世界の価格競争の最前面に立たされていることを感じた一日でした。



農家の方へインタビュー調査



農家の方からのスピーチ

③ 有志事例

英語の授業で扱った教材（アメリカの幼い少女が小児がんと闘い、自分と同じように小児がんで苦しむ人々をなくすために、将来の研究資金にして欲しい、との思いで亡くなるまで自分の庭でレモネードを販売したという話）を読んで感動した生徒たちが、高校3年生の最後の文化祭で、有志でレモネードスタンドを立ち上げた。

多くの共感を集め、10万円を小児がん・がん患者を支援するNGOに寄付した。



文化祭での Alex Lemonade Stand の様子。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 部活動(英語部)の一環として。文化祭の中で。
長期休業中の活動として ）